

日本農業新聞

スイカ産地 振興策探る

青果卸と種苗会社

全国各地の青果卸8社が2、3の両日、奈良県のスイカの種苗会社5社の圃場(ほじょう)を相次いで訪問した。2日夜には橿原市内で「消費動向を踏まえた産地育成や販売」をテーマに意見交換した。卸と種苗会社で構成する「青果育種研究会」が主催した。

参加したのは東京青果や東京新宿ベジフル、横浜丸中青果、大果大阪青果など主要卸8社と、スイカの育種に力を入れる神田育種農場、松井農園、ナント種苗、大和農園、萩原農場。

意見交換では、卸から「果実専門店はスーパーにない商品を求めている。

。特色のある品種を教えてもらえれば産地に紹介する」(横浜丸中青果)と種苗会社に連携を呼び掛けた。

産地開発に力を入れる東京青果は、需要の高まる小玉スイカについて「10%当たり収量が3〜5%になるような栽培方法を見いだしてもらえば、産地に作付けを薦めやすい」と協力を求めた。

種苗会社からは、産地の育成について品質の良いスイカを作る農家を適正に評価する方法を探っていかないと、産地が育たない」「1株で1果だけを収穫する方法を産地に提案すれば品質の標準化も進み、消費者に支持されるのではないか」などのアイデアも出ていた。